

【2025年5月 第4回 対面 & オンライン講演会】

● 2025年5月8日(木) 14:00~15:30

講師：中川 十郎 氏
名古屋市立大学22世紀研究所特任教授、
国際アジア共同体学会学術顧問、
日本ビジネスインテリジェンス協会理事長

演題：「情報論から見た中国の『一帯一路』」

【概要】

19世紀のパックス・ブリタニカ、20世紀のパックス・アメリカーナに次いで21世紀はパックス・アシアーナ、パックス・チネーゼ、パックス・インディアの時代が到来することは確実とみられる。その主要市場はユーラシア大陸が主戦場になることは人口、資源、物流上も自明である。

過去30年来、急速に衰退しつつある日本にとって、発展しつつある一衣帯水の中国の国際市場戦略の「一帯一路」、その金融機関たる「アジアインフラ投資銀行」への参加が、日本が衰退を食い止め、生き残りのためにも、国際情報論、国際マーケティング論の観点からも必須である。

しかるに最近の日本企業、メディアの中国批判は上記のマクロ、グローバル的動きに逆行しており、米国の中国への対抗戦略、敵視戦略に迎合することは問題だ。アジアの時代を迎え、日本は日中韓、インド、ASEANとの協力を注力すべきである。

【講師略歴】

鹿児島ラサール高校卒、東京外国語大学イタリア学科国際関係専修課程卒。

1959年ニチメン(現双日)入社、海外業務部欧米課、企画開発室欧米課を経て、バグダッド駐在員、インドニューデリ支店長、ニチメンブラジル・リオデジャネイロ支店長、ニチメンブラジル・サンパウロ本社取締役、ニチメン東京本社海外業務部中南米主席、米州課長、カナダ・カルガリー出張員を経て米国ニチメン・NY本社開発担当副社長。海外8カ国に20年間勤務。

1992年愛知学院大学公募に応募。商学部助教授、94年同教授、98年東京経済大学経営学部マーケティング学科、経営大学院 教授。

2002～03年 米コロンビア大学経営大学院客員研究員。中国对外経済貿易大学・客員教授、大連外国語大学・客員教授、日本大学国際学部・講師、日本大学グローバルビジネス研究科講師、日本経済大学経営大学院講師など。

国際アジア共同体学会理事長をへて学術顧問、一帯一路日本研究センター副代表、日本ビジネスインテリジェンス協会理事長、国際伝統・新興医療融合協会理事長など。

【主要著書】

『国際経営戦略』(文真堂)共著、『一帯一路からユーラシア新世紀への道』(日本評論社)共著、『東アジア共同体と日本の戦略』監修 進藤栄一、中川十郎、桜美林大学北東アジア総合研究所、『知識情報戦略』石川 昭・中川十郎 編著(税務経理協会)

【主要翻訳書】

『成功企業のIT戦略』共訳(日経BP)、『CIA流戦略情報読本』共訳(ダイヤモンド社)、『情報組織戦略』共訳(エルコ)

【主英文著作】

“Global Perspectives On Competitive Intelligence” Society of Competitive Intelligence Professionals, Viginia, USA. (Co-Writers)

“Intelligent Corporation” Taylor Graham, London- (Co-Writers)

“An Introduction to Knowledge Information Strategy”. Prof. Akira Ishikawa & Prof. Juro Nakagawa, World Scientific, Singapore (co-editors & writers)

<参加希望の方へ>

ZOOM を使ったのオンライン参加となります。

下記の URL をクリックするか、ミーティング ID とパスコードを入力してご参加ください。

(講演開始1時間前から公開します)

視聴時にご本名がわかるようにし、ミュートにしてください。

匿名でのご参加はご遠慮いただいています。

なお、ホストの方で記録のため録画いたします。

2025年5月 第1回 東北委員会講演会

(【21世紀アジア塾】および講演委員会と共催)

●2025年5月16日(金) 14:00～15:30

講師: 矢吹 晋 氏 (横浜市立大学名誉教授)

演題: 「湛山ブームへの違和感～私が警戒に接した三浦老・石橋老」

【概要】

- ① 私は1962.4～67.9 東洋経済新報社で匿名座談会〈今週の問題〉を担当した。大原万平論説主幹の助手としてテーマの選択、出席者への連絡、送迎、速記録の原稿化などを担当した。三浦・石橋老は1962.4～64春の2年余、ほとんど発言はしなかったが、原則として毎回出席された。楕円形の10数人の出席者の間で、両氏の座席はほぼ決まっていた。
- ② 湛山は1957年と63年の訪中し、毛沢東・周恩来の両首脳と日中米ソ平和同盟構想を語り合った。これがLT貿易・記者交換、田中角栄訪中への道を切り開いた。
- ③ 湛山没後50年を契機として湛山ブームが生じているが、〈小日本主義〉への解釈に私は違和感を禁じ得ない。

【講師略歴】

1938年福島県郡山市生まれ。1962年東京大学経済学部卒。東洋経済新報社記者、アジア経済研究所研究員、横浜市立大学教授を経て、同大名誉教授。21世紀中国総研ディレクター、朝河貫一顕彰協会代表理事・会長等を歴任。著書に『チャイナウオッチ 矢吹晋著作選集』全5巻＋別巻「朝河貫一顕彰」(未知谷)、『天皇制と日本史』(集広舎)、『邪馬台国は大和、卑弥呼は百襲姫』(未知谷)、『和魂漢才』(花伝社)など。

＜参加ご希望の方へ＞

対面のみでの参加となります。国際善隣会館5階の会議室へどうぞ。

Zoomでの配信はいたしませんので、ご了承ください。

【2025年5月 第5回 対面&オンライン講演会】

●2025年5月29日(木) 14:00~15:30

講師：立山 良司 氏(防衛大学校名誉教授)

演題：「流動的な中東情勢とトランプ政権」(仮)

【概要】

2023年10月以来続いているイスラエルとハマスの戦争は、現在もガザ地区に徹底的な破壊と人道危機をもたらしている。またその影響でシリアでは体制が転換し、イランとイスラエルが直接軍事衝突するなど異例の事態が続いた。このように中東全体が大きく変化する中で、トランプ大統領が登場し、核開発問題でイランとの協議を再開した。講演ではパレスチナ問題の現状と将来、分断が進むイスラエルのユダヤ社会、再び注目されるイランの核開発問題に焦点を当てながら、流動化する中東情勢全般とトランプ政権の対応を検討する。

【講師略歴】

防衛大学校名誉教授、(一財)日本エネルギー経済研究所客員研究員。早稲田大学卒。在イスラエル日本大使館専門調査員、国連パレスチナ難民救済事業機関(UNRWA)職員、(財)中東経済研究所研究主幹、防衛大学校教授などを歴任。専門は中東現代政治。主な編著書に『ユダヤとアメリカ——揺れ動くイスラエル・ロビー』(中央公論新社、2016年)、『イスラエルを知るための62章(第2版)』(明石書店、2018年)。最近の論考に「『大イスラエル主義』という巨大な潮流」(『VOICE』2024年12月号)、「ガザ戦争と変化する中東のパワーバランス」(『CISTEC Journal』2025年3月号)、「ガザ住民の苦しみは終わりそうにない」(『季刊アラブ』2025年春号)。

<参加ご希望の方へ>

ZOOM を使ったのオンライン参加となります。

下記の URL をクリックするか、ミーティング ID とパスコードを入力してご参加ください。

(講演開始1時間前から公開します)

視聴時にご本名がわかるようにし、ミュートにしてください。

匿名での参加はご遠慮いただいています。

なお、ホストの方で記録のため録画いたします。